

帯広開発建設部では、第8期北海道総合開発計画に基づき、十勝の魅力ある価値の創造を目指して事業を推進しています。

十勝地域は、雄大な景観が多くの観光客を呼び、地元で収穫される農水産物は安全・安心・美味しさを誇り国内外の需要は高まっています。これまでに先人が培ってきた資源を活かし、また持続的に発展させるためには、農水産業の生産の場となる「生産空間」を維持し、市街地や観光の場、輸送拠点を効果的に結びつけた十勝圏域全体を見渡した社会資本整備が必要です。治水・道路・農業・港湾・漁港の充実・強靱化によるハード的な側面はもとより、整備されたインフラを誰が、どのように使うのかといったソフト面の整理・提案を今まで以上に展開していきます。海外からの旅行者のため道路情報板やパンフレットで外国語表記を行うことや、にぎわいの場として利用される道の駅を防災に活用するための検討を行うことも施策の一環です。また、川や山の楽しさを提供する一方で、大雨災害を想定した情報の配信や命を守るための訓練も地域と協働して行っていきます。

地域の価値を創造するという観点から、北海道開発局では「生産空間」に住み続けられるための施策を検討するためのモデル地域のひとつとして十勝南地域を選定しています。さらに、現在注目が高まっている自動運転の実験を大樹町の道の駅を拠点として実施しました。これからの北海道を牽引するための発想や技術の種が十勝の大地にはたくさん蒔かれています。

帯広開発建設部では、十勝に住む皆さん、訪れる方々とともに、未来を育んでいける社会資本整備に取り組んでまいります。

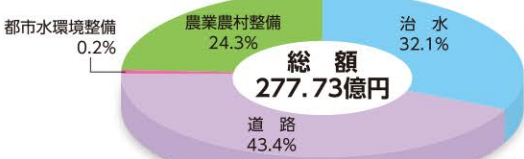


## 平成30年度 帯広開発建設部事業費総括表

事項	事業費
治水	8,914百万円
道路	12,073百万円
都市水環境整備	43百万円
農業農村整備	6,743百万円
計	277.73億円

※1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。  
 ※2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

### 事項別構成比



※四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

## 十勝をつなぐ「生産空間」を支える社会資本整備

～総合的な視野に立った社会資本整備によって、農業王国十勝の発展に寄与しています(小麦の例)～

十勝管内では約15万tの小麦が収穫され、全国シェアの約19%を誇ります。網走地方で収穫される小麦の一部は整備された道路を通り、十勝港から本州へ輸送されます。

**○農業農村整備**  
農地や排水路等の整備により生産の向上と安定に貢献

**○治水**  
大雨を安全に流下させることで農地を浸水から防護

**○道路整備**  
安全性と速達性を図ることで確実な輸送を実現

**○港湾整備**  
大型貨物船が安全に入港するための航路浚深を実施

# 防災に関する地域支援

## 職員派遣による支援

### リエゾン

リエゾンは国土交通省の「現地情報連絡員」の名称です。大規模な災害が発生した場合、又は発生のおそれがある

場合に地方自治体等に職員を派遣し、(1)災害情報や開発局への支援要望等の情報収集、(2)災害情報の提供、(3)災害対策用機械など、支援資機材等に関する連絡調整を行います。

帯広開発建設部では、平成28年8月の大雨災害時に、管内の9自治体に延べ70名の職員を派遣しました。



リエゾン活動状況(足寄町)

### TEC-FORCE

大規模な自然災害に際して被災状況の把握や被災地の早期復旧のための技術的支援など、被災

した地方自治体等の支援を実施します。

平成28年度は、熊本地震の応急対策支援のため、帯広開発建設部から九州地方整備局管内に隊員を派遣しています。また、8月の大雨災害では、関東・中国・四国各地方整備局からの応援を受け入れ管内自治体の支援を行いました。国土交通省が一丸となって地域を災害から守ります。



町道の被災状況調査(清水町)

## 災害対策用機械による支援

災害時の緊急対応や情報通信手段の確保のための各種資機材を配備し、災害時には速やかに出動しています。これらの資機材は地方自治体等の要請に基づき貸与することが可能です。平成28年8月の大雨災害では、管内市町村の支援として、足寄町の冠水のほか、帯広市、音更町、幕別町、池田町、豊頃町に排水ポンプ車および照明車を出動させ、夜を徹して排水作業にあたりました。また、新得町や清水町の断水では、帯広開発建設部が保有する給水装置付散水車により給水活動を行いました。

災害時に迅速かつ的確な運用ができるよう、あらゆる事象を想定した訓練を計画的に行っています。平成29年度は、衛星通信車や画像伝送装置により収集した情報を自治体に提供することを目的とした訓練を芽室町と共同で実施しました。排水ポンプ車を始めとする各種災害対策用機械の稼働訓練は毎年池田町ほか管内で10回程度行っています。



排水ポンプ車による排水作業(音更町)

## 帯広開発建設部が保有する災害対策用機械 (平成30年4月1日現在)

区分	名称	規格	保有台数
情報系	対策本部車	拡幅型	1
	衛星通信車	衛星受信車	1
	情報収集車	ヘリテレス受信車	1
	情報収集車		1
作業系	水陸両用車	履帯式	2
	排水ポンプ車	30m <sup>3</sup> /min(超軽量型水中ポンプ式)	1
	排水ポンプ車	60m <sup>3</sup> /min(超軽量型水中ポンプ式)	1
	排水ポンプ車	30m <sup>3</sup> /min高揚程型(超軽量水中ポンプ式)	1
	ポンプ自走装置	半没水式	2
	照明車	ボール式	2
支援系	土のう造成機	360袋/h	1
	待機支援車	小型4床式	1